

研究者

聞く

に

試験とはなんだろう？

人間開発学部 初等教育学科
前田麦穂 准教授

人生は試験、いや、試験の連続だ。学校教育のなかで受けてきた数々の試験も、就職にあたっての採用試験も、わたしたちは数えきれないほどの「テスト」に身を投じ、その結果として「選抜」と「配分」がなされ、社会的な立ち位置を決められている。しかし、そこで見いだされているのは、本当にわたしたち個人の能力なのだろうか？

戦後日本の教員採用試験というテーマを通じて、こうし

た謎に取り組んでいるのが、前田麦穂・人間開発学部初等教育学科准教授だ。インタビューで見えてくるのは、教育学の観点で見えてくる、試験というしくみの不思議さかもしれない。

近年「教員不足」が叫ばれ、教員採用試験の制度改革も進んでいる——というのが一般的な常識かもしれない。しかし、『戦後日本の教員採用試験はなぜ始まり普及したのか』（晃洋書房、令和5〔2023〕

年）という単著をもつ前田准教授の目線からすれば、それは戦後日本の教育制度において一貫して見いだされる問題だ。前田准教授の関心のありどころを踏まえて、後半は教員採用試験の奥深さへと一気にフォーカスしていく。教員養成や教育実践をめぐる研究は数多くあれど、教員志願者が教壇へ立つべく挑む教員採用試験には、深掘りされるべき論点が数多く眠っているようだ。

4・5面に続く

みはるかすもの

くらがりの天地にひびく花火哉（正岡子規）／夏の風物詩と言えば花火大会が浮かぶ。花火のルーツを探索と江戸時代の「水神祭」まで遡る。花火は人々の「祈り」をこめたものであり、そこにはエンターテインメント性はなかった▼日本三大花火大会と言えは全国花火競技大会（秋田県・大曲）、土浦全国花火競技大会（茨城県・土浦）、長岡まつり大花火大会（新潟県・長岡）を指す。テレビ中継されるほど人気の隅田川花火大会は含まれていない。日本三大花火大会は職人による「競技性」が選定基準となっており、隅田川は「歴史的都市型」花火大会と位置付けられるものとされる。異色のものとしては一九五二年から開催されている熱海海上花

火大会があり、年10回以上開催されている▼花火職人は、経験や実務・実作業を通じて自身の中に蓄積された知識、つまり「経験知」を継承していく。「経験知」は暗黙知に分類されるコソ、ノウハウという知恵と換言できよう。これは身体的・感覚的な知識や洞察、つまり主観的であり、第三者に伝えることが困難ともされる。しかし現代では、情報処理技術の進展により、ある程度は言語化してアウトプットすることも可能になりつつあるらしい。このように「形式知」に転換することにより継承の断絶（属人化）を防ぐ。既に花火の打ち上げに際しては、伝統的な技術で作られた花火玉をAIやデジタル制御という技術と融合させて打ち上げている▼道の駅「ながおか花火館」には長岡花火を音と映像により体験できるドームシアターが設置されている。伝統と最新の技術との融合による、永続的な日本文化の継承がはじまっている。

心身の罪穢れを祓い清める

夏越の大祓

夏越の大祓が6月30日、渋谷キャンパス神殿で執行された。佐柳正三理事長、針本正行学長をはじめ役教職員らが参列し、半年間の罪穢れを祓い清めた写真。

大祓は、毎年6月と12月の年2回、宮中をはじめ全国各地の神社で行われ、日常を過ごすなかで知らず知らずのうちに犯した罪や過ち、心身の穢れを祓い清める神事。大祓詞を奏上し、人形と呼ばれる人の形に切った白紙で体を撫でて罪穢れを移し、和紙と麻を細かく切った切麻などで心身を祓い清め、無病息災を祈る。

本学では毎年、大祓に際して事前に渋谷・たまプラーザの両キャンパスで人形と切麻を頒布している。在学生をはじめとした希望者が自宅等でお祓いに用いた人形も参列者の人形とともに祓い清められた。





「知」の核となるよう協働することを目

休憩を挟んだ後半では、古記録や古文書類の精査によって判明した、豊臣秀吉をめぐる政権構造について解説。一族のみならず、偏諱によって形成された集合体の存在に着目して、秀吉兄弟没後も次世代の体制を維持する構想があったと詳述すると、参加者たちは大きくうなずきながら聞き入っていた。

講演終了後、多くの参加者が、泰厳歴史美術館所蔵の貴重な豊臣秀長関連資料や、講演で取り上げられた資料を確認しようと、足早に本学博物館の企画展へ向かった。

渋谷区図書館連携事業講演会 「秀吉兄弟と『秀』の一族」

渋谷区図書館連携事業の講演会「秀吉兄弟と『秀』の一族」が7月9日、渋谷キャンパス常磐松ホールで開催された。

この事業は、令和4(2022)年3月に地域住民から借しまれつつ閉館した渋谷区立渋谷図書館が、令和10年度に本学渋谷キャンパス隣の渋谷区立広尾中学校敷地内へ新図書館として新設されることを受け、本学と渋谷区図書館が連携し、新図書館が地域コミュニティの「知」の核となるよう協働することを目

的として、令和7年度に始まった事業である。

研究開発推進センター公開講演会 神武天皇ゆかりの地・ 宮崎県で開催

国学院大学研究開発推進センターによる公開講演会「神社の由緒と歴史―神武聖蹟と地域社会―」が、7月4日に神宮会館(宮崎市)で開催され、約120人が参加した。

今回の講演会は五神宮会(英彦山神宮、霧島神宮、鹿兒島神宮、鶴戸神宮、宮崎神宮)との共催、国学院大学学院友会宮崎県支部と、国学院大学若木育成会宮崎県支部の協力のもと実施された。

講演では、渡邊卓・研究開発推進機構准教授が司会を務め、本学から小濱歩・神道文化学部准教授と山崎雅稔・文学部准教授Ⅱ写真Ⅱが登壇した。小濱准教授は「古事記」「日本書紀」の神武天皇東征伝承」と題し、神武天皇伝承について「天皇統治の起源として、いかにして治めれば平和と安寧を享受できるのかを示した物語として読むことができる」と説明した。山崎准教授は「古代日向と諸県君」と題し、古墳時代に宮崎県南部地域の一盟主として君臨したとみられる諸県君に着目し、古代日向とヤマトの王家との関係について説明。「日本書紀」や「古事記」にも描かれた日向の女



性たち、特にのちに仁徳天皇の妃となる髪長媛にまつわる、宮崎県内各地に伝わる伝承などにも触れながら講演を行った。黒岩昭彦・鶴戸神宮宮司(同機構共同研究員)、本部雅裕・宮崎神宮宮司、井田篤・宮崎市教育委員会文化財課長らも登壇し、鶴戸神宮、宮崎神宮のご祭神である鸕鷀草葺不合尊や神武天皇を中心とした宮崎県の神話・伝承などについて講演を行った。

第16回観光まちづくりカフェ 空き家再生と持続可能な まちづくりを考える

観光まちづくり学部地域マネジメント研究センターが主催する第16回観光まちづくりカフェが6月24日、たまプラーザキャンパスで開かれ、学生や教職員、一般の参加者など約50人が集まったⅡ写真。

この催しは、各地で観光まちづくりに取り組む専門家とともに観光まちづくりを考える場として開催されている。今回は、暇と梅爺株式会社代表取締役の後藤大輝氏を招き、「起業とアートで生かす東京長屋」空き家再生・防災との両立と共に「をテーマに行われた。

第1部は後藤氏が墨田区京島での取り組みの事例を中心に講演。建て替えや都市の再開発によって古い長屋が失われていく課題に対し、長屋や空き家を借り受けて改修し、アーティストや若者に貸し出す「中間大家」としての活動や、町全体を舞台にした芸術祭「すみだ向島EXPO」を紹介した。古い建物の活用をめぐる建築・防災基準など行政との課題にも触れ、住民ネットワークの形成が実質的な防災につながるなどの考えや、ビジネス・教育・アートを連携させた持続可能な「エコシステム」構築への展望を語った。

第2部では、同学部の椎原晶子教授がファシリテーターを務め、後藤氏とトークセッションを行った。後藤氏は今後の取り組みとして、老朽化や相続問題で存続が危ぶまれる長屋を買い取り、町全体を巨大なアート作品として保存・活用する構想を示した。椎原教授は、訪れた人が町の一員になるような関係性を築く「観光まちづくり」の重要性を指摘し、歴史的建物を残すための法制度・税制面の課題を解説した。

質疑応答では、「京島を今後どのような町にしていきたいか」との質問に対し、後藤氏は「歴史的文化の保存と新たな表現の実験場が共存する、新旧混在のまちづくりを目指す」と述べた。

たまプラーザキャンパスの学生を対象に国学院大学博物館見学会を実施

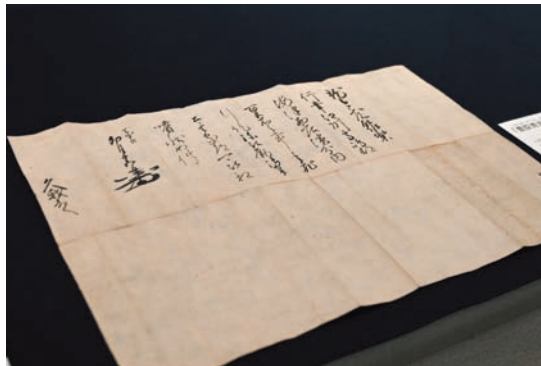


たまプラーザキャンパスで学ぶ人間開発学部、観光まちづくり学部の学生を対象とした国学院大学博物館見学会が、6月19日に開催された。

通常開館終了後、約30人の学生が博物館に集い、見学会を開始した。常設展の「考古展示室」を深澤太郎・研究開発推進機構教授が担当し、「神道展示室」を大東敬明・同教授が、「校史展示室」を渡邊卓・同准教授がそれぞれ担当し、展示解説を行った。

その後、参加者たちは自由に館内を見学。教員に積極的に質問したり、学芸員から展示の工夫について話を聞いたりしながら、熱心に展示を鑑賞した。

国学院大学博物館企画展 「秀吉兄弟とその時代 ―『秀』の一族の“覇気”―」



国学院大学博物館は7月7日から9月13日までの期間で企画展「秀吉兄弟とその時代―『秀』の一族の“覇気”―」を開催している。

今回の企画展ではNHK大河ドラマで人気を博している豊臣秀吉・秀長兄弟やその係累、名前に「秀」の字を与えられた武将たちを含めた「一族」に注目した展示となっている。重要文化財の久我家文書や、吉田家文書等の本学図書館所蔵資料のほか、泰厳歴史美術館(東京都町田市)所蔵の、秀長が「長秀」と名乗っていた時期に記した書状(8月9日まで展示)など、貴重な豊臣関連史料を展示する。

なお同企画展の解説動画はYouTube「オンラインミュージアム」で8月1日より配信する予定。

久我山中学の生徒が 国学院大学職員の仕事を学ぶ



国学院大学久我山中学校の生徒らが職場見学のため6月10日、渋谷キャンパスを訪れた。中学からのキャリア教育に力を入れている同校では、約20年前から特別教育活動を行っており、その一環として生徒が企業や団体の職場を訪問し、現場で働く人から直接話を聞く機会を設けている。

当日は同校女子部に在籍する中学2年生18人が来校。キャリアサポート課および教務課の職員から、日々の業務内容について説明を受け、大学職員の仕事について理解を深めた。続いて、管財課の職員による案内で有栖川宮記念ホールを見学。学生食堂で昼食をとった後、本学博物館に移り、学芸員から博物館の管理運営に関わる業務について説明を受け、最後は学芸員の案内で館内を見学した。

大学院進学相談会を開催

国学院大学大学院への進学希望者を対象とした進学相談会が6月27日、オンライン形式で開催され、本学学生を含む約150人が参加した。

冒頭、佐藤長門・大学院委員長(文学部教授)が「台風の接近に伴い、今回は急きょオンラインでの開催とした。この後すぐに大学院で指導に当たる教員から話を聞くことになるが、進学に向け、各専攻での詳細な研究内容や入試について説明を受け、不明な点は遠慮なく質問を投げかけてほしい」とあいさつした。

続いて、各専攻・コースごとの説明会もオンラインで行われ、担当教員が研究内容や入試制度、支援体制を説明した。次年度の入学を目指す参加者からは研究内容の確認や研究計画書の書き方について、進学を希望する学部生からは、受験の心構えや読んでおくべき書籍や論文などについて、積極的に質問する姿が見られた。

大学院体験授業 学部生が参加



国学院大学大学院の体験授業が6月1日から27日にかけて渋谷キャンパスで実施された。本企画は学部生が大学院の授業を体験し、「大学院の学び」に触れる機会を通じて、研究の楽しさや奥深さを知ってもらうことを目的に、例年前期と後期に実施している。参加した学部生は大学院生に交じって授業を受け、研究発表の場では意見を述べるなど、意欲的に取り組む姿が見られた。

令和8年度法科大学院入試説明会を開催

令和8年度法科大学院入試説明会が6月4日、渋谷キャンパスで開催された。

講師は早稲田大学法科大学院教授の若林泰伸氏。若林氏はかつて本学で教鞭を執っており、早稲田大学に移籍後および本学の法科大学院閉学後も、本学の招きを受け、法科大学院を志望する学生に向けた説明会を毎年継続して行っている。

当日は、1年生から4年生まで約50人が参加。早稲田大学法科大学院の特徴や強み、学修環境、司法試験合格状況、修了後の進路、ならびに令和9(2027)年度入試に関する情報について説明が行われた。説明会終了後には活発な質疑応答が行われた。

令和7年度学校法人国学院大学決算は、監事および会計監査人の監査を経て、6月12日に開催された理事会で承認、6月25日開催の評議員会で報告された。

令和7年度は、私立学校法改正に伴う対応を行いつつ、「中期5カ年計画」にのっとり策定された事業計画を円滑に遂行した。

法人全体では、学校法人会計基準改正に伴う賞与引当金の新規計上等、制度改正を踏まえた財務運営を実施し、大学部門では、若木タワー熱源更新工事や球技場人工芝改修工事を実施するなど、大型工事を円滑に遂行することができた。

財務面では基本方針とする「資金の安定確保」と「資金の効果的使用」に努めた結果、法人全体で基本金組入前当年度収支差額が1190百万円の収入超過となり、安定した財務基盤を確保した。

※詳細は学校法人国学院大学HPをご覧ください。

〔財務部経理課〕

貸借対照表 令和8年3月31日

(単位：百万円)

資産の部				負債および純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	122,250	121,259	991	負債の部	12,555	11,900	656
有形固定資産	62,825	63,550	△ 724				
特定資産	57,007	54,879	2,128	基本金総額	128,997	127,983	1,014
その他の固定資産	2,418	2,830	△ 412	第1号基本金	108,955	107,951	1,003
流動資産	9,902	9,048	854	第2号基本金	3,500	3,500	0
				第3号基本金	15,272	15,262	10
				第4号基本金	1,270	1,270	0
				繰越収支差額	△ 9,400	△ 9,576	176
				純資産の部合計	119,597	118,407	1,190
資産の部合計	132,152	130,307	1,846	負債および純資産の部合計	132,152	130,307	1,846

事業活動収支計算書 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位：百万円)

		科目	予算	決算	増減
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	15,101	15,189	△ 88
		手数料	727	897	△ 170
		寄付金	173	193	△ 20
		経常費等補助金	4,191	4,330	△ 138
		付随事業収入	192	254	△ 62
		雑収入	365	430	△ 65
	教育活動収入計		20,750	21,293	△ 543
	事業活動支出の部	人件費	11,158	10,732	427
		教育研究経費	8,021	7,586	436
		管理経費	1,548	1,597	△ 49
教育活動支出計		20,728	19,914	814	
教育活動収支差額		22	1,378	△ 1,356	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	257	413	△ 157
		その他の教育活動外収入	50	75	△ 25
		教育活動外収入計	307	488	△ 182
		借入金等利息	15	8	7
	事業活動支出の部	その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	15	8	7
		教育活動外収支差額		291	480
	経常収支差額		313	1,859	△ 1,545

		科目	予算	決算	増減
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		雑収入	0	0	0
		その他の特別収入	33	49	△ 15
		特別収入計	33	49	△ 15
	事業活動支出の部	資産処分差額	1	10	△ 9
		その他の特別支出	626	707	△ 81
		特別支出計	627	717	△ 90
		特別収支差額	△ 594	△ 669	74
	[予備費]		271		271
	基本金組入前当年度収支差額		△ 552	1,190	△ 1,742
基本金組入額合計		△ 1,268	△ 1,034	△ 234	
当年度収支差額		△ 1,820	156	△ 1,975	
前年度繰越収支差額		△ 9,576	△ 9,576	0	
基本金取崩額		17	21	△ 3	
翌年度繰越収支差額		△ 11,379	△ 9,400	△ 1,979	
(参考)					
事業活動収入計		21,089	21,830	△ 740	
事業活動支出計		21,641	20,640	1,002	

資金収支計算書 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位：百万円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	増減	科目	予算	決算	増減
学生生徒等納付金収入	15,101	15,189	△ 88	人件費支出	10,647	10,749	△ 102
手数料収入	727	897	△ 170	教育研究経費支出	6,212	5,755	456
寄付金収入	175	197	△ 22	管理経費支出	1,443	1,392	51
補助金収入	4,217	4,356	△ 139	借入金等利息支出	15	8	7
資産売却収入	0	0	0	借入金等返済支出	600	600	0
付随事業・収益事業収入	242	308	△ 66	施設関係支出	795	792	4
受取利息・配当金収入	257	347	△ 91	設備関係支出	554	507	47
雑収入	365	451	△ 86	資産運用支出	3,130	3,184	△ 54
借入金等収入	600	600	0	その他の支出	600	613	△ 13
前受金収入	2,840	2,916	△ 76	予備費	271		271
その他の収入	1,852	1,853	△ 2	資金支出調整勘定	△ 668	△ 567	△ 101
資金収入調整勘定	△ 3,129	△ 3,212	84	当年度支出合計	23,600	23,033	567
当年度収入合計	23,247	23,902	△ 655	翌年度繰越支払資金	8,235	9,457	△ 1,222
前年度繰越支払資金	8,588	8,588	0				
収入の部合計	31,835	32,490	△ 655	支出の部合計	31,835	32,490	△ 655

私の専門は国際金融論・国際通貨論です。研究テーマは、米ドルを中心とする国際通貨システムの仕組みと、それが発展途上国・新興国の経済発展や金融の安定にどのような影響を与えるのかを明らかにすることです。

これまで、発展途上国における通貨統合を主な研究対象としてきました。通貨統合とは、複数の国が共通通貨を導入したり、為替制度を統一したりする取り組みです。代表例としてユーロが知られていますが、私は特に中東の湾岸協力会議(GCC)諸国が進めてきた通貨統合構想を研究してきました。

大学院生の頃、この構想を初めて知ったときの驚きは今でも忘れられません。石油資源に恵まれた湾岸諸国が、なぜ通貨統合を目指すのか。そして、その構想はヨーロッパのユーロと何が違うのか。その疑問が研究を始めるきっかけとなりました。日本では中東の通貨・金融システムを専門とする研究者は多くなく、資料の収集や分析に苦労することもありました。しかし、その分、新しい知見を積み重ねていく手応えを感じながら研究を続けてきました。

現在は、同じ問題意識のもとで、各国通貨の間には階層性があるという「国際通貨ヒエラルキー」の考え方を軸に研究を進めています。世界には、国際決済や資産保有で広く利用される米ドルのような「強い通貨」がある一方、多くの途上国・新興国の通貨は国際的な役割が限られています。このような通貨の「力関係」が各国経済にどのような影響を及ぼすのかを分析しています。

現在の国際金融システムでは、米ドルが国際決済や国際金融取引の中心的な役割を担っています。その一方で、多くの途上国・新興国は、自国通貨ではなくドル建てで資金を調達せざるを得ません。そのため、為替

学問ノ道

経済学部60周年スペシャル

発展途上国・新興国の視点を大切にしながら、世界経済や国際通貨を理解する

私の研究は、一貫して発展途上国・新興国の視点を重視しています。近年、世界経済におけるこれらの国々の存在感は急速に高まっており、世界経済を理解するためには、先進国だけでなく途上国・新興国も視野に入れることが不可欠です。かつてのように先進国が世界経済の大部分を占める時代ではなく、高い成長を続ける途上国・新興国の動向は世界経済を考えるうえで欠かせないものとなっています。

研究を通じて最終的に目指しているのは、途上国・新興国の視点を取り入れながら、国際通貨論をさらに発展させることです。学会の仲間とも連携しながら、この課題に取り組むことが研究者としての私の重要な役割だと考えています。今後も、理論研究と現実の国際経済の動きを結び付け、世界経済の見え方を変える理論を構築したいと考えています。

経済学部は令和8年に60周年を迎えました。教員たちの教育・研究の歩みをお伝えします。

経済学部教授

木村秀史

きむら・しゅうし
博士(経済学)。専門は国際金融論・国際通貨論。令和元年より本学准教授、4年より現職。主な著書に『発展途上国の通貨統合』(単著、蒼天社出版、2016年)、『グローバル経済と債務累積の構造』(共著、晃洋書房、2021年)などがある。



研究者に

聞く

試験とはなんだろう？

人間開発学部 初等教育学科
前田 麦穂 准教授高校入試での偶然が気づかせた
社会的評価の不思議教育は「選抜」や「配分」の
社会的機能を持つ

私が専門にしている教育社会学という学問領域には、そのなかにさまざまな研究分野が存在しています。そのひとつに、教育における選抜という営みや、それをめぐるシステムを研究するという分野があります。

たとえば、学歴や試験によって、わたしたちの進む道が異なってくる側面が少なからずあるということとは、読者の皆さんも体感的に理解されていることだと思います。そして、教育社会学における関心は、こうした学校教育のなかに留まるものではありません。何らかの専門職や、それにまつわる資格や就業といった話も含まれてきます。たとえば私の指導教員である橋本鉦市先生(放送大学教授・東京大学名誉教授は、医師をはじめとした専門職養成制度の研究をしています。医師として働くで医師免許を取得するのみならず、高等教育での養成や実際の職場への採用・就職といったさまざまな段階があるわけです。

なぜ、教育社会学はこのような関心を抱いているのか。それは、教育が社会において果たす機能や役割について、大きくわけてふたつの意味を読み取っているからです。ひとつは、「社会化」です。将来の社会を担う次世代の人々に、我々が住んでいる社会において望ましいものの考え方や規範、必要な知識を教えることで、スムーズに社会の構成メンバーになってもらう——つまり「社会化」という機能が、教育という仕組みに期待されているわけ

けです。

もうひとつ、教育がもつ社会的機能として、「選抜」や「配分」がある。教育社会学では考えられています。教育システムのなかで、よいとされる成績をとる人もいれば、そうではない人もいます。ある尺度によって一人ひとりがもつ能力というものが代数的に指標化されていき、それが地位や職業にまで結びついていくことがある。さらにいえば、そうした「選抜」や「配分」が、さまざまな人々の分業によって成り立っている近代社会を支えており、教育はその下支えに寄与している、という見方が可能なのです。

私が主に着目しているのは、後者のほう、つまりは教育システムがもつ「選抜」や「配分」という機能です。具体的内容としては、主に「戦後日本における教員採用選考試験」に焦点を当てて、研究を進めています。

高校受験時に思った
試験結果への問い

教育をめぐる研究といえば、現場でのよりよい教育実践を明らかにするものを想像される方も多いかもしれませんが、あるいはそうした実践を担う教員を養成する方法やしくみを探究する研究も存在します。これは教員として必要な知識や技能をトレーニングし、身に付けてもらうわけですが、「予期的社会化」ともいわれる側面をもっています。こうした教育実践・教育養成の研究は非常に重要で、研究されている先生方も大変多くいらっしゃいます。

一方で、教員養成から教育実践までの間に存在する、その重要な門戸となっている教員採用試験について

「試験」でおこなうのではない、というのが日本の法制度上の規定になっています。教育公務員特例法(昭和24

「1949」年1月12日公布)によっておいて、教員の採用は「選考」によることなうという規定が規定されているのです。この「選考」というのは非常に微妙なニュアンスを帯びています

「競争試験以外の能力の実証」というロジックに対し、また異なる論理が追加される——教育の特殊性を強調し、「教員の人格を評価する」という意味づけがなされてきたものです。にもかかわらず、戦後ほぼ一貫して、教員採用に際して「試験」はおこな

なれてきました。それにかんしては、さまざまな細かい議論があるのですが、その一端を紹介するとすれば、戦後直後、とにかく教育を再始動させるための教員が求められ、その必要のなかで法制度の整備に先んじて「試験」がおこなわれていた、ということがあります。さらに、そうした実情とびつたり整合するかたちで法を整備することも難しく、さらには実質的に「試験」が教員採用数の調整に使われてきた……といったいろいろな側面を持ち合わせています。

近年「教員不足」が叫ばれているように見えますが、きちんと調べると、近現代日本では断続的に「教員不足」が論じられてきたことがわかります。ここではひとまず戦後の話に限りませんが、戦前であれば師範学校の卒業生は教職への就職義務があったのに対し、戦後は特に教員養成を主とする大学・学部のほか、国・公・私立定さる大学においても教員養成ができる「開放制」が採用されました。これで多くの教員志願者を確

保し、そのなかで実際の採用人数を調整するようになったのです。ご想像の通り、教員志願者が多いうちは問題がないが、みんなが教員になりたがるような時代になると、途端に需要に供給が追いつかなくなってしまうシステムなのです。



まえだ・むぎほ

博士(教育学)。専門は教育社会学。本学助教を経て、令和8(2026)年より現職。主な著書に、『変容する教員のキャリア発達と学校組織』(共著、ギアース教育新社、2026)、『戦後日本の教員採用：試験はなぜ始まり普及したのか』(晃洋書房、2023)などがある。

法と現実のズレが生み出した
教員採用試験教員採用試験は
常に変わっている

読者の皆さんのなかにも、教員採用試験について最近ニュースを目にしたことがある、という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。近年、教員採用試験については改革案が矢継ぎ早に打ち出されるようになっていきます。

先に結論からお伝えすると、こうした話は別に現在に限った話ではありません。戦後間もなく日本の教育システムが立ち上げられていった時期から、その時代の要請に合わせて柔軟に制度の構築と改革がなされてきた、といえます。つまり、これは戦後日本の教育が歴史的に構築してきたシステムの結果ということなのですが、そうした過去についてお話しするために、まずは近年の動向をご紹介します。

たとえば目下話題になっていることのひとつは、教員採用選考試験の

の人生やキャリアが大きく左右されます。そうした仕組みは公平なもののように思われがちですが、やはり本人の「能力」とは言い切れない偶発的なものがかかわっている。そうした不思議さや面白さのようなものが、以降、常に頭の片隅にありました。

平成20(2008)年、高校生だった頃にリーマン・ショックが重なったこともあり、教育格差や子どもたちの貧困の問題に関心を抱くようになり、また、教育社会学の道へと歩みを進めていくうちに、こうした試験や選抜といったテーマへと向かい合うようになっていったのです。

法と現実のズレが生み出した
教員採用試験教員採用試験は
常に変わっている

「共通問題」あるいは「共通試験」です。これまでは、教員採用試験を実施する各都道府県・政令市などが、各々独自に問題を作成し、実施してきました。ところが各地の教育委員会より問題作成の負担が大きいという声が上がると、そうした自治体のニーズに合わせるかたちで、文部科学省は令和9(2027)年度より教員採用試験の1次試験の共通問題を作成、複数の自治体で共通実施とする方針を示しています。

またそれに先立って令和6(2024)年度からは、中央教育審議会の提言にもとづいて、地方自治体によっては教員採用試験の前倒しが行われてきています。すなわち教員採用試験の「早期化」です。

教員採用試験の制度上の
不安定さについて

民間企業をめぐっておこなわれる就職活動時期がどんどん早期化していることは多くの方がご存じだと思

考えている研究者は、意外なことに数が限られています。これまで先達の先生方も少なからずいたのですが、いまも決して多いとはいえないというのが実情です。

ではなぜ、私がこうした教育の「選抜」や「配分」といった機能に関心をもつようになったのか……。さまざまに要因はあるのですが、ひとまずここで端的に紹介させていただきます。そのなかで英語の試験に出てきたことわざが、中学校の英語の授業で A L T (Assessment Language Teacher…外国語指導助手)の先生からたまたま教わったことがあるものだったのです。

そのおかげもあってか、私は希望の高校に入学することができたのですが、しかしそれは本当に私自身の能力だったのかというと、不思議にも思うわけです。私はこの高校に合格できる「能力」があると社会的な評価を受けているけれど、しかしそれは「たまたま A L T の先生が」とわざを覚えてくれた」という偶発的な要素によるものにすぎないのではないかと……。そう感じたことが、強く記憶に残っています。

試験は公平なのか、
偶発なのか？

同じようなことが、大学受験時にも起こりました。歴史の問題だったと思うのですが、試験の直前に予備校の模試に出ていた問題と非常に似た問題が、たまたま出題されたのです。予備校としては「予想的中」と胸を張れる出来事でしょうし、私もその恩恵を受けながら志望大学に受

を、じっくりと掘り下げているところ。もちろん、いくら制度上の不安定さがあるうと、揺らがない熱意を持った教員志願者は決して少なくないということも、本学で学生たちに接していて強く実感するところで、す。教員採用試験に向けて学生が準備を進めるなか、模擬面接で私も試験官役を務めることがありますが、学生たちの志望動機や思いの熱量に、学ばせてもらうことが本当に多いのです。そうした目の前の実情と向き合いながら、これからも教員採用試験の歴史を探究していきたいと考えています。

国学院大学メディア

「人間の学が知の乾きを潤す」
国学院大学が蓄積し醸成してきた知恵を
多彩なスタイルでご紹介します。



第1回法学部講演会 「男性の生きづらさ」を考える

国学院大学法学部が主催する令和8年度第1回法学部講演会「『男性もつらい』を受け止めたその先へ」が7月3日、渋谷キャンパスでの対面とオンラインとのハイブリッド形式で開催され、約200人が参加した。写真。

講師には、立教大学大学院社会デザイン研究科特任准教授で、一般社団法人UNLEARN理事の西井開氏を迎えた。まず西井氏は、男性は周囲から「弱い」と判断されることを恐れて、自身の痛みや悲しみを認めることができない「ウィークネスフォビア」の傾向があり、SOSを出せないまま心の不調を抱え込むなど、深刻な問題にもつながっている」と指摘した。

また、男性集団では、身体的特徴や恋愛経験などを話題にした一方的な「いじり」や「からかい」が起こりやすく、自己肯定感が損なわれる例も多いと説明した。加えて、ビジネスの場面で効率や成果が重視されるあまり、日常会話でも行動や実績が優先され、自らの感情や心の状態を語る言葉が失われがちであることが生きづらさを生む一因になっていると指摘。感情を伴う対話や1対1の関係性の構築、自らの弱さを認め合い、ケアし合うあり方を模索する重



健康増進を目的に地域住民と学生が交流 「たまプラウェルネス アカデミー2026」開催

「たまプラウェルネスアカデミー2026」が6月6日と20日、たまプラザキャンパスで開かれた。本イベントは地域住民の健康増進に役立ててもらおうと、人間開発学部が毎年開催している。

6日の第1回では、同センターの活動に携わる学生と教員が、参加者の筋肉量、骨密度、血管年齢、柔軟性評価などの測定や、体力測定、栄養調査を実施した。筋肉量の測定の一環で行った片脚の起立動作や大股歩行は、一見簡単そうに見えるが、日常生活ではあまり使わない筋肉を働かせるため、参加者からは予想外の身体の状態や数値に驚きの声が上がった。

20日の第2回では、第1回で測定した結果をグラフなどにして見やすくまとめた資料を参加者一人一人に配布。それらを基に、林貢一郎・人間開発学部教授と小林唯・同准教授が測定結果を解説し、測定値の読み方や栄養摂取のポイントを分かりやすく伝えた。写真。

その後は、支援学生の会「ちーへる」に所属する学生が、認知機能や主要な筋肉を刺激する運動の紹介や、食品サンプルを使った栄養価チェックをグループに分かれて行った。学生たちは日頃の学びを生かし、参加者と一緒に体を動かしながら交流を深めた。



観光まちづくり学部3年次前期必修科目「観光まちづくり演習Ⅲ」では、横浜・相模原・湯河原・神田・谷中の5つの地域を対象に、それぞれ60人程度の「スタジオ」に分かれて演習に取り組んできた。相模原・湯河原・神田の3つのスタジオでは最終報告会を現地で実施しており、神田スタジオの報告会は7月7日、こもれび千桜(東京都千代田区)で開催された。

観光まちづくり演習Ⅲ 地域の将来像と方策を現地で発表

観光まちづくり学部3年次前期必修科目「観光まちづくり演習Ⅲ」では、横浜・相模原・湯河原・神田・谷中の5つの地域を対象に、それぞれ60人程度の「スタジオ」に分かれて演習に取り組んできた。相模原・湯河原・神田の3つのスタジオでは最終報告会を現地で実施しており、神田スタジオの報告会は7月7日、こもれび千桜(東京都千代田区)で開催された。

発表後の講評で、神田学会関係者は「神田は働く街としてにぎわいを求める半面、住む街としての側面もあり、バランスの難しい街。もっと魅力ある街になるよう、今後も良い提案を期待している」と激励。報告会に訪れた地域住民の中には、神田に80年近く住む院友(本学卒業生)の姿も。「街の姿も大きく変わっている。みなさんが神田について調査し、提案してくれたことをとてもうれしく思う」との感想が寄せられた。

第65回若木体育祭 学生らが競技を通して交流



第65回若木体育祭が6月14日、たまプラザキャンパスで開催された。写真。

午前9時から行われた開会式では、校歌斉唱に続いて太田直之・副学長(人間開発学部教授)があいさつし、学生代表による選手宣誓が行われた。その後、参加者全員で準備体操を行い、競技を開始した。

SPORTS SQUARE 1(S1)アリーナでは、バスケットボールなどの競技が行われたほか、全学応援団やドリル競技部SEALS、吹奏楽部による演舞が披露された。グラウンドでは、フットサルやリレーなどが行われ、競技を通して学生らが交流を深めた。

International Coffee Hourを開催



国際交流課が主催する「International Coffee Hour」が6月19日、渋谷キャンパスで開催された。

この催しは、留学生と本学学生が集い、フリートークやゲームなどを通じて学内で国際交流を深めることを目的としている。異なる文化や価値観に触れるとともに、自国の文化を見つめ直す機会にもなっており、毎回多くの学生が参加している。

今回は、K-STEP科目等履修生、学部留学生、本学学生ら約30人が参加し、7月3日に開催された「和装DAY」に向け、キャンパスを飾る風車作りに取り組んだ。学生生活課の職員から作り方の説明を受けた参加者らは、会話を弾ませながら色とりどりの風車を製作した。

宮廷装束の着装を披露



衣紋披露「宮廷装束の着装披露—勅祭の装束と五衣唐衣裳—」が6月20日、渋谷キャンパスで開かれた。この催しは、伝統文化を知識・モノ・技術で継承する衣紋道研究会主催、神道文化学部共催で実施されており、今回で9回目を数える。

当日は衣紋道研究会所蔵の装束を用い、天皇の使者である勅使が派遣されて執り行われる「勅祭」の束帯と、宮中での女性の正装である五衣唐衣裳(十二単)の着装を披露した。御方役は青木義宗さん(神文4)と福永藍さん(同)が務めた。

王朝装束の実物と着装の様子を間近で見られる貴重な機会とあって、会場には本学の学生をはじめ一般来場者など約100人が集まった。

御方役を務めた青木さんは「全く窮屈さを感じなかったことが最も印象的だった。見た目の優美さや乱れにくさに加え、実用的な動きやすさも求められ、着付け方や装束の形式がいかに洗練され続けてきたかを実感した」と語った。福永さんは「初めて宮廷装束を着装し、一つ一つに込められた伝統の重みを感じた。衣紋者同士が息を合わせて作業を進める姿は印象的だった。細部まで美しく整える細やかで熟練した技術に触れ、日本の伝統文化の奥深さと素晴らしさを学ぶことができた」と語った。

合同企業セミナー たまプラザキャンパスで開催



キャリアサポート課が主催する就職活動イベント「学内合同企業セミナー」が6月17日、たまプラザキャンパスで開催された。

本説明会は、これから就職活動が本格化する3年生などを対象に実施された。本学学生の採用に意欲的な民間企業・公務員を採用する官公庁など5団体が説明会を実施し、延べ100人の学生が、夏のインターンシップや選考につなげようと参加した。各採用担当者から事業や魅力について直接聞くことができる貴重な機会とあって、学生らは関心のある企業などのブースを積極的に訪れ、担当者の話に熱心に耳を傾けていた。



インフォダイジェスト



…在学生



…保証人



…卒業生



…一般



…受験生

内容 日にち 時間 場所 対象 定員 料金 申し込み 問い合わせ

大学からのお知らせ

災害で被害に遭われた皆さまへ

令和8年6月24日から発生した大雨に伴う災害で、災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変で今後の学業生活に支障をきたすおそれのある学生は、保証人(父母等)と相談のうえ下記の大学各窓口までご相談ください。適用対象地域は本学HPや内閣府防災HPでご確認ください。

問 ▶ 学生生活課(渋谷 ☎03・5466・0145、
たまプラーザ ☎045・904・7714)
▶ 大学院事務課(☎03・5466・0142)

OPEN CAMPUS 2026について

渋谷キャンパスとたまプラーザキャンパスの両キャンパスで同時開催します。学部・学科での学び、模擬授業、キャンパスツアーなどのプログラムを用意していますので、ぜひご参加ください。タイムスケジュールおよび模擬授業の内容は、大学HPをご確認ください。

日 8月1日(土)、2日(日)、22日(土)

申 大学HP(二次元コード)からお申し込みください。

・8月1日、2日分は、申し込み受け付け中～7月29日(木)23:59※

・8月22日分は、8月3日(月)15:00～19日(木)23:59※

※事前予約制プログラムの申込期限です。空きがある場合に限り、お申し込みいただけます。来場のみをご希望の方は、当日までお申し込みいただけます。

問 入学課(☎03・5466・0141、✉exam@kokugakuin.ac.jp)

令和9年度 大学院入学試験(秋季入試)

内 国学院大学大学院では、別表の日程で令和9年度の入学試験(秋季入試)を実施します。詳細は、大学院HP(二次元コード)でご確認ください。

問 大学院事務課(☎03・5466・0142)

夏季休暇中の事務休止日 および事務取扱時間について

内 次の期間、大学事務を一斉休止します。夏季休暇中の事務取扱時間は大学HP(二次元コード)でご確認ください。

さい。

日 8月1日(土)～9月13日(日)の(土)・(日)・(祝)、8月7日(金)～19日(木)

後期授業開始について

学部・専攻科・別科・大学院の後期授業開始は9月19日(土)です。学年暦については大学HPなどでご確認ください。

第10回「渋谷区長への施策提言コンペ」の参加者を募集します

内 本学では渋谷区と連携し、学生ならではの目線による施策提言を募集しています。10回目となる今回のテーマは「国学院大学生が考える渋谷区の課題と、それを解決するための施策」です。発表では学生の皆さんから直接、長谷部健区長へ提言を行い、ご意見をいただきます。応募方法詳細は本学HP(二次元コード)でご確認ください。

【発表】10月28日(木)にパワーポイントを用いた10分間のプレゼンテーション。

【表彰】区長賞、学長賞(各賞金5万円)、その他副賞

問 本学の学部生、大学院生

申 9月16日(木)までに本学HP内のエントリーフォームへ登録

問 企画課(☎03・5466・0395、✉kikaku@kokugakuin.ac.jp)

法学部学生懸賞論文を募集

内 法学会主催で法学部生を対象に、法律学・政治学に関するテーマで懸賞論文を募集します。優秀な論文は表彰を行い「懸賞論文入選集」に掲載します。併せて副賞(最優秀賞:図書カード10万円分、優秀賞:同5万円分、佳作:同3万円分)を贈ります。

申 令和9年1月18日(月)午後3時までに論文(A4サイズ40字×30行の横書き。脚注含め10～40枚)と論文概要をWord形式で作成し、令和8年度法学部懸賞論文提出formsから提出してください。詳細は本学HP(二次元コード)でご確認ください。

問 法学会懸賞論文窓口(✉law-kensyo@kokugakuin.ac.jp)

大学院入学試験 令和9年度秋季試験日程

研究科	課程	入試制度	専攻	募集人員	願書受付期間	試験日・合格発表	手続期間
文学	博士前期	一般	神道学・宗教学	10名	8月24日(月)～9月4日(金)	【試験日】 10月3日(土) (口述試験) 【合格発表】 10月13日(火)	【一次手続】 10月16日(金)～ 10月23日(金) 【二次手続】 令和9年 2月25日(木)～ 3月4日(木)
			文学	15名			
			史学	20名			
		外国人	神道学・宗教学	若干名			
			文学	若干名			
			史学	若干名			
		社会人	神道学・宗教学	若干名			
			文学	若干名			
法学	博士前期	一般	神道学・宗教学	若干名	8月24日(月)～9月4日(金)	【試験日】 9月18日(金) (口述試験) 【合格発表】 9月25日(金)	【一次手続】 9月29日(火)～ 10月6日(火) 【二次手続】 令和9年 2月25日(木)～ 3月4日(木)
			文学	若干名			
			史学	若干名			
		外国人	神道学・宗教学	若干名			
			文学	若干名			
			史学	若干名			
		社会人	神道学・宗教学	若干名			
			文学	若干名			
経済学	博士前期	一般	神道学・宗教学	若干名	8月24日(月)～9月4日(金)	【試験日】 9月18日(金) (口述試験) 【合格発表】 9月25日(金)	【一次手続】 9月29日(火)～ 10月6日(火) 【二次手続】 令和9年 2月25日(木)～ 3月4日(木)
			文学	若干名			
			史学	若干名			
		外国人	神道学・宗教学	若干名			
			文学	若干名			
			史学	若干名			
		社会人	神道学・宗教学	若干名			
			文学	若干名			

「どんなまちがった答えも、つまらないしつ問も、みんなの考えるたねになるからたいせつにしよう」。

小学3年生のY男は、算数が大の不得意。この日も、誰でもできる簡単な問題を間違えました。

教師の問いは、紙を半分に折って、「これを算数の言葉で何と言う?」。もちろん、答えは2分の1。

周囲のハイ、ハイの声に圧倒されて彼も挙手。すかさず教師は、Y男を指名。しかし、彼の返答は、「5、5、…」。

教室内は当然、大爆笑です。

その時、「笑顔」を学級目標にしていた教師が、厳しい顔で「なぜ笑った」と問い詰めた後、「Y男はなぜ、5、5と言ったのか、Y男の気持ちになって、みんなで考えよう」。

グループ討論を経て、みんなが導いた回答は、「この前、1Lの半分は5dL、1cmの半分は5mmって習ったよね。だからY男は5に何かをつければよいと思ったのでは」。自分たちで見つけた見事な学習の振り返りです。

その時、教師が即座に板書したのが、冒頭の言葉だったのです。

Y男は、「生活ノート」に書き込みました。

「きょうからぼくは、算数が大好きになりました」。

他者から自分の価値を認めてもらった誉め言葉が、その子どもの心の成長の糧になったのです。すなわち「成長のスイッチ」が入ったのです。

実は、青年期の子どもたちは、青年心理学で言う「まなざし意識」が強い時期なので、精神的には自律していても、社会的、経済的には自立していない青年期の子どもたちは、「もう」子どもではないが、「まだ」大人でもない。そこで、「もう」と「まだ」の狭間期の中にあつて、周囲から見られているという意識が高くなるのです。ファッションや流行語などに敏感に反応するのも、それ故です。

それはまた、価値ある存在だと他者から認められたいという「社会的承認の欲求」への渴望にもなります。

私自身も、人目のつかない箇所を掃除していたのを担任教師が「縁の下力持ち」と認めてくれたことで、振り返れば、そんな人生を送るようになった気がします。



では、どうすれば「成長のスイッチ」が入る言葉を、子どもに発することができのでしょうか。

一番の教科書(お手本)は、大人の皆さんのこの時期での経験です。自分は、どんな時、どんなことを言われて、励まされ、元気になったか。自分の都合ばかり優先させないで、子どもの立場に自分を置き換えて、考えてみてください。

長期の夏季休暇では、子どもと向き合う機会が増えます。これまで気付かなかった子どもの「よさ」が発見できるかもしれません。

最後に、野口英世博士の言葉で締めくくります。

「人生最大の幸福は一家の和楽である。円満なる親子、兄弟、師弟、友人の愛情に生きるより切なるものはない」。

認め言葉で「成長のスイッチ」を



第32回



名誉教授 新富 康央

しんとみ・やすひさ
学校法人国学院大学特別参事。人間開発学部初代学部長、専門は教育社会学、人間発達学。新しい時代の子育て論には定評。

近くて遠い? 遠くて近い? そんな親の気持ちや子どもの気持ちを一緒に考えませんか? 新富名誉教授による子育てエッセーを隔月でお届けします。感想や新富名誉教授への質問、講演依頼などございましたら広報課までお寄せください。

硬式野球部

全日本大学野球選手権大会 第75回記念大会 ベスト4

国学院大学硬式野球部は、6月8日から14日に開催された全日本大学野球選手権大会に出場した。6月10日、トーナメントの2回戦から登場した同部の初戦は、神奈川大学野球連盟1部リーグを制して出場した横浜商科大学。序盤、先発の藤本土生投手(経3)と相手投手陣による粘りのピッチングで、0-0のまま試合が進んだが、5回の攻撃で石野遼選手(経営3)、花田悠月選手(神文2)、佐藤大空選手(経4)、赤堀颯主将(経営4)の連打によって一挙6点を先制すると、7回にはさらに3点を追加。東都大学野球リーグでの好調を維持する選手たちの活躍により、9-0となりコールド勝利を収めた。

6月11日はベスト4をかけて、北東北大学野球連盟の優勝校である富士大学と対戦。2回に2点を先制され追う展開となる中、5回に赤堀主将の適時打で1点を返し、8回

に石野選手が2ラン本塁打を放ち、逆転。前日の先発からリリーフにまわった藤本投手がおさえて勝利に導いた。6月13日の準決勝では関西学生野球連盟1部優勝の関西大学と対戦。2回に連打を浴び、2点を先制されて以降、一進一退の攻防が続く中で、7回に赤堀主将のソロ本塁打、8回の石野選手の適時打で同点に追いつくも、本試合でもリリーフに立った藤本投手が打ち崩されサヨナラ負けを喫した。惜しくも決勝戦進出はかなわなかった。

なお、赤堀主将が同大会で12打数7安打、打率.583で首位打者賞



首位打者賞を獲得した赤堀主将

を受賞。「新・国学院」をスローガンに掲げて進化を遂げた本学野球部を象徴する結果を残した。

—— 赤堀主将のコメント ——

このような賞をいただけたのは、仲間、そして応援してくださる皆さまの支えがあったからだと確信しています。野球は良い打球でも正面を突けばアウトになることもある競技だからこそ、日々の積み重ねが結果につながると感じています。どんな場面でも結果を必然に変えられる人間になれるよう努力し、秋の日本一に向けて精進して参ります。

赤堀主将・藤本投手が侍ジャパンに選出

国学院大学硬式野球部の赤堀颯主将(経営4)と藤本土生投手(経3)が、大学日本代表(侍ジャパン)に選ばれた。両選手は7月10日から15日まで台湾・台中で開催された「ワールド・カレッジ・ベースボール・チャンピオンシップ」に出場した。

赤堀主将は今年春の東都大学野球1部リーグ優勝に貢献し、ベストナインに選ばれたほか、全日本大学野球選手権大会では首位打者賞も獲得している。藤本投手もリーグ戦で活躍し、同大会では全試合に登板して好投した。



侍ジャパンに選ばれた藤本投手

柔道部

全日本学生柔道優勝大会 ベスト16・東京都ジュニア柔道体重別選手権大会で中村選手が優勝果たす

全日本学生柔道優勝大会(男子75回・女子35回)が6月27、28日に日本武道館で開催され、国学院大学柔道部はベスト16となった。

本大会は、体重無差別の7人による団体戦で行われ、全国から63大学が参加した。同部は三回戦から登場し、初戦は愛知大学と対戦。3番手の五将・荒川琉正選手(健体2)が上四方固めで一本勝ち、6番手の副将・林健成選手(健体4)も小外刈りで一本勝ちを収め、2-0で勝利した。続く四回戦では東海大学と対戦し、力及ばず0-6で

敗れ、大会を終えた。

7月12日に東京武道館(東京都足立区)で実施された令和8年度東京都ジュニア柔道体重別選手権大会では男子90kg級の中村勇吾選手(経3)が見事優勝を果たし、66kg級では宮部蓮匠選手(観まち2)が準優勝となり表彰台に上がった。この結果として、両選手は9月13日にリプロ武道館(埼玉県上尾市)で実施される全日本ジュニア柔道選手権大会へ出場する。

浴衣で彩る「和装DAY」 キャンパスで日本文化に触れる

日本文化の体験や発信する機会として、例年七夕の時期に合わせて行われている「和装DAY」が、渋谷とたまプラーザの両キャンパスで7月3日に開催された。願いを込めた短冊が取り付けられた笹飾りや、学生らが手作りした風車、鮮やかな七夕飾りなどで彩られたキャンパスでは、多くの学生が涼しげな浴衣姿で過ごした。

■「和装WEEK」で演舞や演奏など披露

渋谷キャンパスでは、7月1日から7日にかけて「和装WEEK」として、昼休みに部会やサークルによる演舞や演奏が行われ、青葉雅楽会による雅楽演奏や全学応援団のリーダー公開、落語



研究会による七夕寄席などがキャンパスを盛り上げた。音楽研究会Inside Music Orchestraによる七夕ライブでは、演奏者全員が浴衣姿で登場。多くの学生や教職員が足を止めて演奏を楽しみ、ソロパート部分ではひととき大きな拍手や歓声を上げた。



■浴衣姿で「国大の夏」を演出

3日の「和装DAY」当日には、着付け講習会も催され、大勢の学生が浴衣などの和装に身を包みキャンパスを行き交った。体育連合会が提供する縁日コーナーでは、射的やヨーヨー釣りなどを楽しむ学生の姿が見られた。また、学生イベント企画リーダーによる企画が多数実施され、特別な一日を盛り上げた。渋谷・たまプラーザの両キャンパスではビンゴ大会を開催。教室が満員になるほどの大勢の学生が参加した

ほか、渋谷キャンパスでは提灯の絵付け体験なども実施された。

藤澤紫・文学部教授による特別講座「遊べる日本美術 特別編 江戸の夏・浮世絵の夜～星をめぐる物語～」も開講され、一般参加者らが浴衣姿で受講する姿が見られた。

浴衣を着て参加した4年生は「1限の授業を受けてから、友人たちと浴衣に着替えて縁日企画に参加した。最後の和装DAYなので、目いっぱい楽しみたい」と笑顔を見せた。

